

テル・ハメディヤート—そのⅢ

Telul Hamediyāt near Tells Gubba and Songor: part III

川又 正智* (編)

Masanori KAWAMATA (ed.)

本稿は、そのⅠ〔藤井・井共編 1981 第Ⅴ章、本誌巻Ⅱ〕・そのⅡ〔川又 1990、本誌Ⅺ〕、のつづきである。文中 Fig. 58 と Pl. 23 とあるのはそのⅠに、図1～15はそのⅡにある。

4 窯

テル東斜面の頂部付近にある(図1-F)。方形平面の昇焰式(垂直焰式)窯跡である。

4-1 遺構(図16～図19)(Fig. 58-1 は平面図左方が北; Pl. 23-1 は北から)

地下を掘りこんで、南・北壁は上方がひろがり、東・西壁はほぼ垂直な燃焼室をつくっている。底面で1.5 m×0.9 mの北燃焼室が、おそらく基底厚1 mの隔壁で南燃焼室とならんている。隔壁上半部には径0.3～0.4 mの両室をつなぐ孔がある(図17中央)。燃焼室のたかさは2.7 mで、その上に厚0.3 mの燃焼室天井つまり焼成室有孔床がある。この有孔床は北半がおおきくこわれていた。

焼成室は方形で、4.1 m×2.0 mのが南北に2室、基底厚0.35 mの壁をはさんでならぶ。外壁は基底厚1 m前後であったらしい。床は東と北がわずかにひくい。

外壁のほとんどと上方窯蓋(焼成室天井)は残存せず、窯全体としての形状・寸法はわからない。平面全体としては約6 m×6 mであろう。

燃焼室は、0.5 m厚のアーチを0.1 mの空隙でならべて、有孔床の支持柱(燃焼室にとってはボルト天井)とし、その空隙は8本の東西方向分焰路として(図19)、焼成室床全面にもうけた通焰孔(径約0.2 m)に焰が行きわたるようになっている。焼成室床面は全体で約16 m²であり、そこに推定64孔(8孔8列)があった。通焰孔といりまじって、径約0.4 mのかすかな円凹が観察できたが、これは被焼成物を置いたのであろう。43(7×6+1)あったものと推定する。煉瓦のおおきさは、確認したものでは、43～44 cm×44 cm×10 cmである。

燃焼室北壁には昇降のための足がかりがのこり、対称の南端中央には煙道かともみえた孔がある(図18)。しかし、燃焼室隔壁の孔のちいささとかを考慮すると、北が焚口、南が煙道、とみるのは成立しがたいであろう。むしろ、これは南北対称の2基接続の窯ではあるまいか。

昇焰式の窯、またその燃焼室がボルトであるのは、ふるくからある[Delcloix et Huot 1972]。しかし、このように燃焼室のボルト方向に燃焼室も焼成室もそれぞれ2室ならび、平面が方形で、これだけ大型のは、管見では類例のないものである。

北端に地下への掘りこみがみえている。この分は調査できなかったが、もう1基別の、よりふるい窯であろう(遺物は図27)。

* 国士舘大学教養部

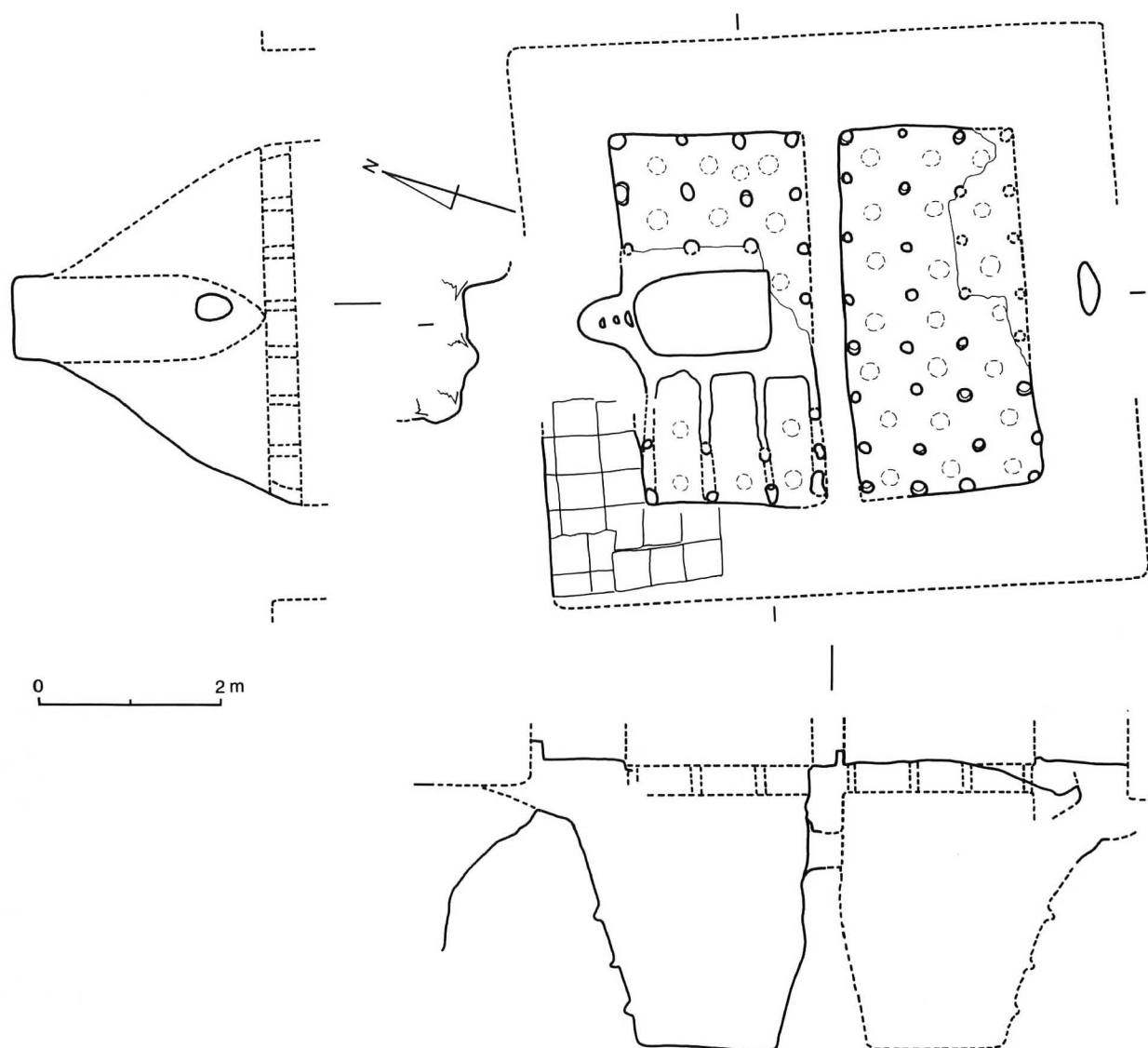


図16 テル・ハメディヤート窯跡F Fig. 16 Kiln F at Telul Hamediyat



図17 窯 北から Fig. 17 Kiln, from the north



図18 窯 南から **Fig. 18** Kiln, from the south



図19 窯 東から **Fig. 19** Kiln, from the east

4-2 遺物 (図20～図27)

4-2-1 土器

いずれの土器も焼成は良好である。

図20-44： 口縁部片。口縁外径 20.4 cm。砂のおおい胎土で、淡緑白色、轆轤造。焼かたく均一。セルフ・スリップ。

図20-45： 口縁部片。口縁外径 24.1 cm。微細砂のおおい胎土で、緑白色、轆轤造。焼かたく均一。口縁下に沈線 1 本。

図20-46： 口縁部片。口縁外径 17.6 cm。微細砂をふくむ胎土で、淡緑灰白色、轆轤造。

図20-47： 口縁部片。口縁外径 24.3 cm。細砂のおおい胎土で、淡緑白色(黄褐色部分あり)、轆轤造。焼硬質。

図20-48： 口縁部片。口縁外径 16.8 cm。細砂をふくむ胎土で、白黄色、轆轤造。外面に黒色物。

図20-49： 口縁部片。口縁外径 24.0 cm。砂のおおい胎土で、白っぽいウォッシュ (一部赤味)。轆轤造。沈線 3 本。

図20-50： 口縁部片。口縁外径 20.0 cm。細砂まじりの胎土で、淡緑白黄色、轆轤造。

図20-51： 口縁部片。口縁外径 20.3 cm。細砂のおおい胎土で、淡緑白色、轆轤造。硬質。内外全面に炭化物。

図20-52： 口縁部片。口縁外径 11.0 cm。細砂のおおい胎土で、淡緑白色、轆轤造。内外撫。硬質。

図20-53： 壺頸胴部。最大径 12.5 cm。高 13 cm 以上。砂をふくむ胎土で淡茶褐色。轆轤造。腹下篋削。

図20-54： 口縁部片。口縁外径 10.0 cm。

図20-55： 口縁部片。口縁外径 27.0 cm。細砂を少量ふくむ良質な胎土で、明赤色、表面は白っぽい。轆轤造。セルフ・スリップ。硬質。平折口縁上に 5 本の浅沈線とそれに直交する沈線がある。

図20-56；図22： 碗，ほぼ完形。口縁外径 14.7 cm，高 6.5 cm。砂のすくない胎土で，轆轤造。内外水引，底篋削。内外全面に紺色釉をほどこすが，風化により淡水色にかわっている。口縁部は銀化。焼台の釉着が内外両面に 3 か所ずつある。貫入が少々あり緑色斑点にみえる。

図20-57；図23： 碗片。口縁外径 19.8 cm，高約 8 cm。きわめて良質な胎土で，砂少，白色。轆轤造，内外水引のみ。釉は，若草色～白色にちかい淡水色で，全面にかけてある。

図20-58： 漉器片。厚 0.7 cm。大粒の砂をふくむ胎土で，白黄色。轆轤造，外撫。焼成前に外から内へ径 2～3 mm の孔をあける。約 2 cm² ごとに 1 孔か。

図20-59： 底部片。高台外径 5.9 cm。黒色砂のおおい胎土で，緑味白黄色。轆轤造。内外撫。高台はけずりだし。内面に多量の石膏が付着。重量大。

図20-60： 底部片。高台外径 11.9 cm。細砂のおおい胎土で，淡褐色，轆轤造。硬質。内側全面に炭化物(厚 0.5 mm)。

図21は図20よりも下方から出土したものである。特に図21-68・69などは窯の使用時代をしめすのではないかとかんがえる。

図21-61： 蓋片。外径 12.0 cm。砂のおおい胎土で，淡緑白色，轆轤造。硬質であるが，もろい感。

図21-62： 蓋片，器受付。外径 25 cm。精良な胎土で，緑味色，轆轤造。内水引。外撫。

図21-63： 口縁部片。口縁外径 30 cm。砂を中程度ふくむ胎土で，淡赤色，轆轤造。ひくい隆線文があり，白っぽいスリップがある。

- 図21-64： 口縁部片。口縁外径 31.8 cm，端径 29.2 cm。砂をふくむ胎土で，黒味色，轆轤造。スリップあり。
- 図21-65： 口縁部片。口縁外径 14.9 cm。砂のややおい胎土で，淡緑味色，轆轤造。内外ともスリップがある。
- 図21-66： 口縁部片。口縁外径 13.2 cm。石英らしい大粒砂と雲母もしくは黄鉄鉱をふくむ胎土で，粗製，黒褐色，手捏。内外とも撫，とくに外面は平滑。
- 図21-67： 口縁部片。口縁部外径 14.5 cm。砂のおい胎土で，赤褐色，轆轤造。内外に緑味のスリップ。風化がいちじるしい，特に内面肩部。
- 図21-68；図24： 胴底部片。胴径 24.0 cm，残高 35.5 cm。砂すくなく，良好な胎土で，淡緑味色。轆轤造，撫と篋削混用，下半は幅 3～4 cm のあらい篋削。高台貼付。青黄色のスリップ。内外にアスファルト。
- 図21-69；図25： 口頸部片。口縁外幅 5.7 cm。砂のすくないやや精選した胎土で，褐色，轆轤造。把手貼付。サーサーン朝風といわれるものである。この類似品は北北東約 6 km のテル・オウェイサトから出土〔Wartke 1984：Abb. 11〕している。
- 図21-70： 把手付壺胴部片。径 11.8 cm。砂をふくむ胎土で，淡緑味色，轆轤造。白っぽいスリップ。
- 図21-71： 口縁部片。口縁外径 11.5 cm。砂をふくむ胎土で粗製。外は黒褐色で研磨され黒光，内面は淡茶褐色。内面口縁部もよくなでられている。手捏。
- 図21-72： 口縁部片。口縁外径 11.3 cm。砂のややおい胎土で，緑味黄色，轆轤造。把手付であろう。
- 図21-73： 肩部片。下段凸帯部外径 14.8 cm。砂のややおい胎土で，緑味黄色，轆轤造，内外とも撫。凸帯は轆轤引きだして，その下面は篋を使用。
- 図21-74： 厚 0.5～0.6 cm。微細砂のおい胎土で，緑味色，轆轤造。外面はうすいスリップがあるようにみえる。内面にはアスファルト付着。
- 図21-75： 底部片。底径 5.1 cm。細砂のおい胎土で，緑味色，轆轤造。内外撫，底部は篋の後に撫か。外面は特に平滑。
- 図21-76： 底部片。高台外径 11.4 cm。淡赤褐色，轆轤造，硬質。外下部は篋削。高台貼付。
- 図21-77： 底部片。底端径 10.0 cm。細砂のおい胎土で，淡赤味色，轆轤造。重量大。外面はなめらか。底部削出。
- 図21-78： 吊手部。口縁径は 31 cm くらいであろう。砂をふくむ胎土で，淡赤褐色。吊手は貼付であろう。

4-2-2 ガラス器

- 図26-5；Fig. 58-2： 切子装飾碗片。口縁径約 10 cm，現存最大厚 0.6 cm。銀白色に風化。カットは互に接している。
- 図26-6： 釧片。断面は隅丸三角形で，幅 0.6 cm，高 0.6 cm，推定全体径 8～9 cm。黒緑色で，内側はよく擦れて平滑。2条のあさい凹線がある。

4-2-3 北側隣接窯(?)の土器

- 図27-79： 口縁部片。口縁頂部径 27.0 cm。白緑灰色。轆轤造。
- 図27-80： 口縁部片。口縁外径 13.0 cm。淡白褐色。轆轤造。
- 図27-81： 口縁部片。白黄灰色。轆轤造。凸帯 2条。

5 表面採集品

発掘点付近で採集した土器の一部を参考のため紹介しておく。

図28-82： 口縁部片。口縁外径 8.3 cm。砂をふくむ胎土で、黒っぽい。轆轤造。スリップあり。

図28-83；図29： 把手付口縁部片。口縁外径 4.9 cm。微細砂を少量ふくむ胎土で、精製品。淡灰黄緑色。轆轤造。带状で縦位置の2把手がある。

図28-84： 胴底部片。胴径 14.2 cm。砂をふくむ胎土で、緑味色。轆轤造。

図28-85： 頸肩部片。頸沈線部径 5.8 cm。砂をふくむ胎土で、茶褐色。轆轤造。

図28-86： 胴底部片。胴径 9.8 cm。2把手が付く。

図28-87： 胴底部片。胴径 13.4 cm。砂のおおい胎土で、黄味茶褐色。轆轤造。胴下方と底は篋削。把手欠失。

図28-88；図30： 胴部片。胴径 23.0 cm。砂をふくむ胎土で、淡茶褐色。轆轤造。櫛描文様。内面に黒色物付着。外面にスリップ。

図28-89： 底部片。高台外径 8.4 cm。砂をふくむ胎土で、轆轤造。

図28-90： 口縁部片。口縁外径 25.9 cm。細砂のおおい胎土で、淡褐色。轆轤造。

図28-91： 口縁部片。口縁外径 36.8 cm。細砂をややおおくふくむ胎土で、赤褐色，軟質。手捏であろう。沈線・押圧とも繊維痕がみえるから植物らしい棒状原体を押しあててほどこしたのであろう。その下は幅 5 cm くらいにけずる。内外とも、クリーム色のスリップをほどこす。

図28-92： 口縁部片。口縁外径 39.6 cm。砂を多量にふくむ胎土で、黄褐色。手捏。スリップ。

図28-93： スタンプ文土器片。

図31： スタンプ文土器片2点。左は三日月状のものがみえる。右はガゼルであろうか。

図示しないが、蜂巢状装飾の土器片があった。

文献

Delcroix, G. et Huot, J.-L.

1972 Les fours dits <de potier> dans l'orient ancien *Syria* T. XLIX, Paris.

藤井秀夫・井博幸（共編）

1981 イラク，ハムリン発掘調査概報「ラーフィダーン」第II巻。

(Fujii, H. and Ii, H. eds., 1981 Preliminary Report of Excavations at Gubba and Songor [Hamrin Report 6] *al-Rāfidān* volume II, Tōkyō)

川又正智

1990 テル・ハメディヤート —そのII「ラーフィダーン」第XI巻。

(Kawamata, M., 1990 Telūl Hamediyāt near Tels Gubba and Songor: part II *al-Rāfidān* volume XI, Tōkyō)

Wartke, R.-B.

1984 Tell Oweissat-Addendum *Forschungen und Berichte* B. 24, Staatliche Museen Zu Berlin.

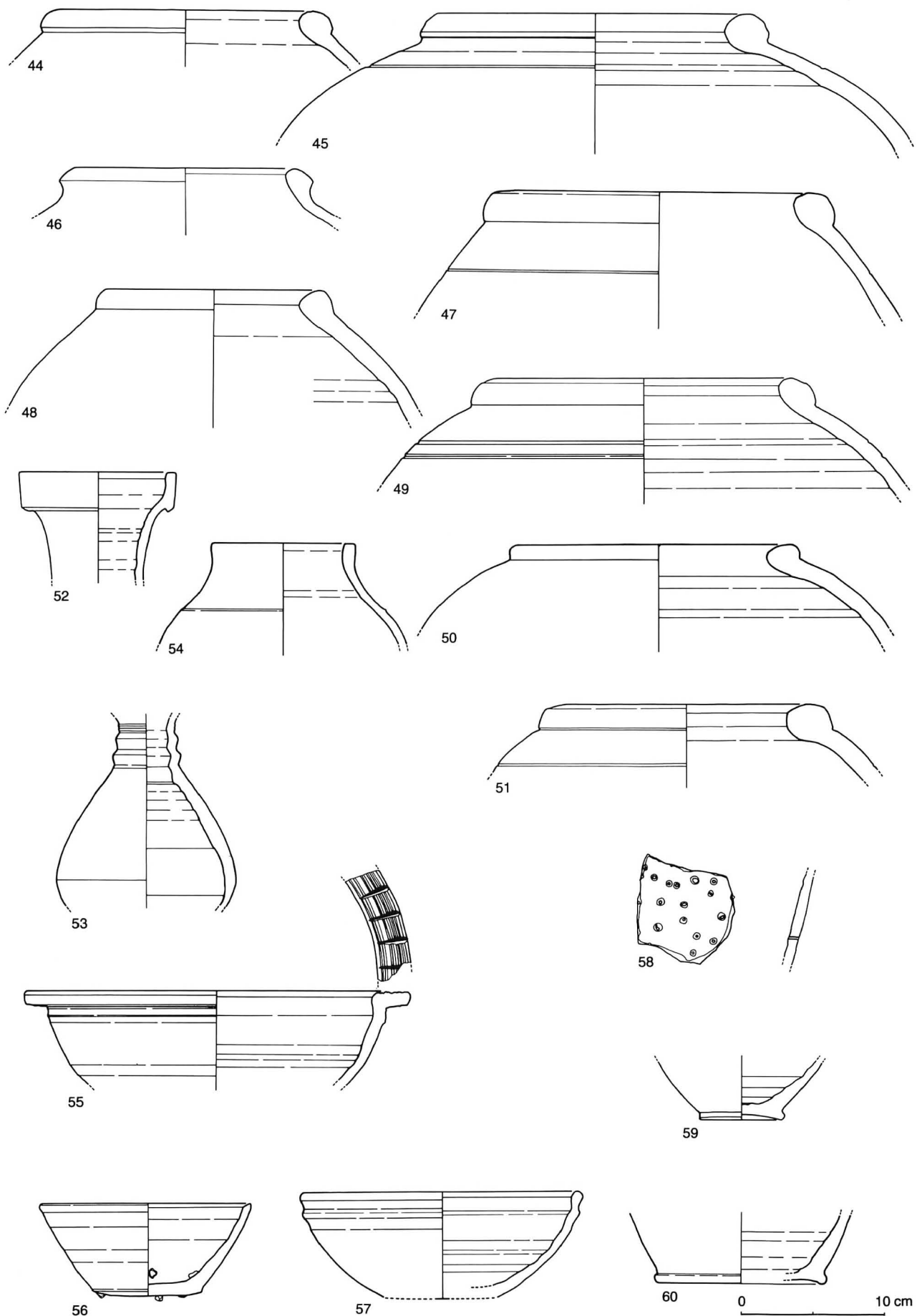


図20 窯内堆積出土土器 Fig. 20 Pottery, from the kiln

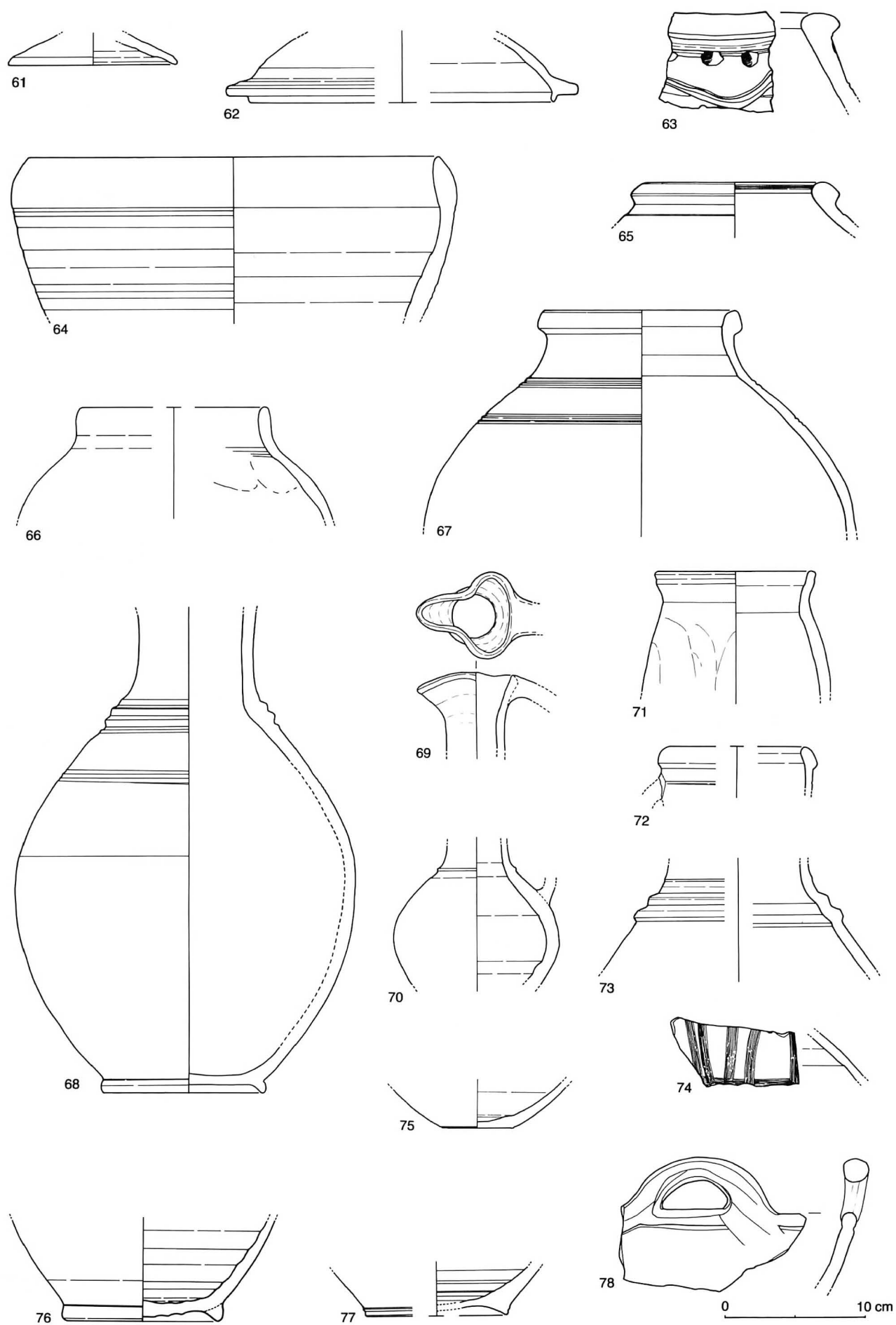


図21 窯内堆積下層出土土器 Fig. 21 Pottery, from the lower accumulation in the kiln



図22 土器 56 Fig. 22 Pottery 56



図23 土器 57 Fig. 23 Pottery 57

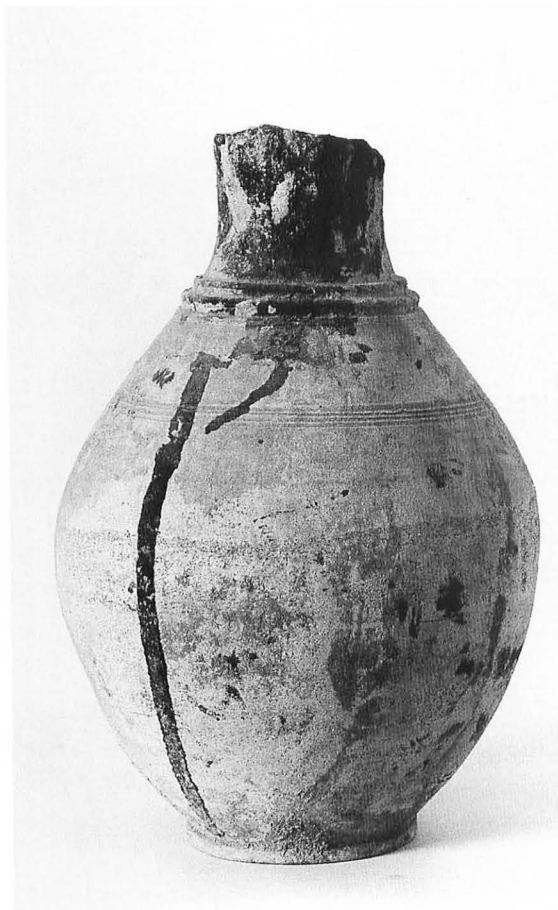


図24 土器 68 Fig. 24 Pottery 68

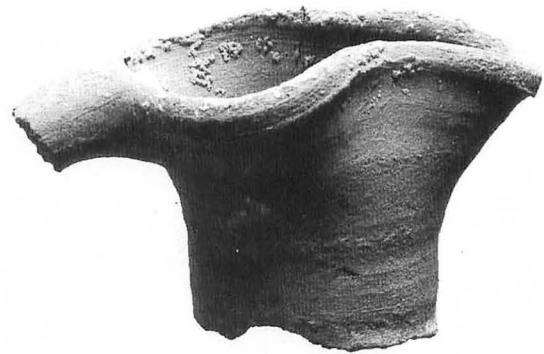


図25 土器 69 Fig. 25 Pottery 69

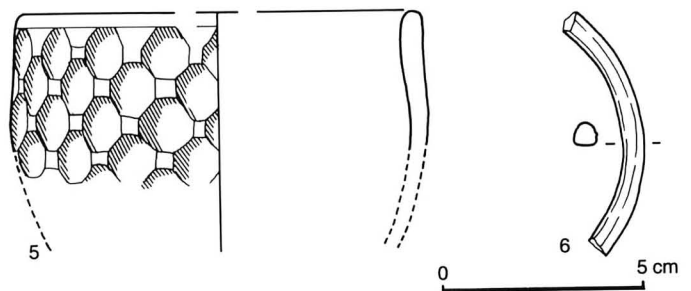


図26 窯内堆積出土ガラス器
Fig. 26 Glass, from the kiln

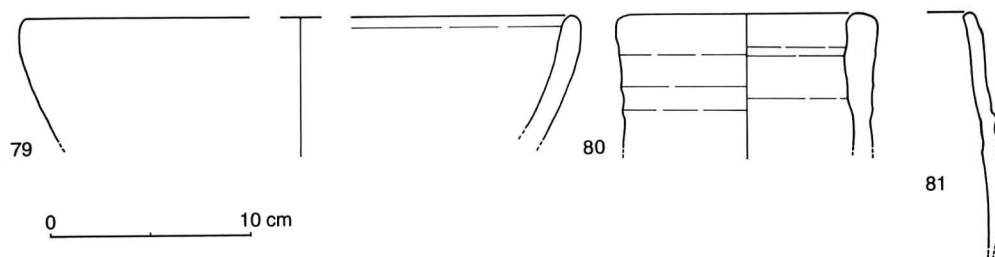


図27 土器（隣接窯？）

Fig. 27 Pottery, from the next kiln(?) on the north

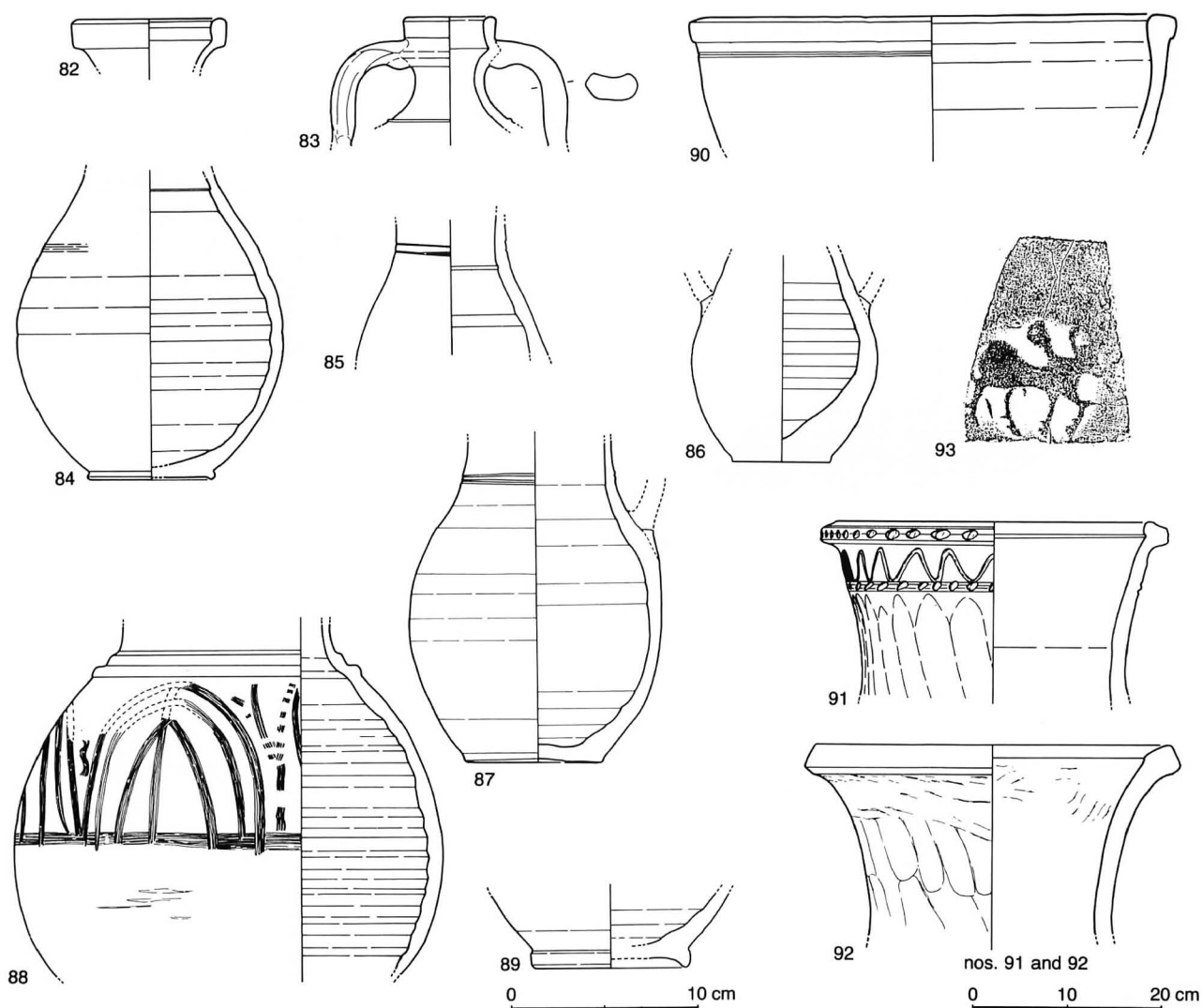


図28 土器（表面採集）

Fig. 28 Pottery, from surface

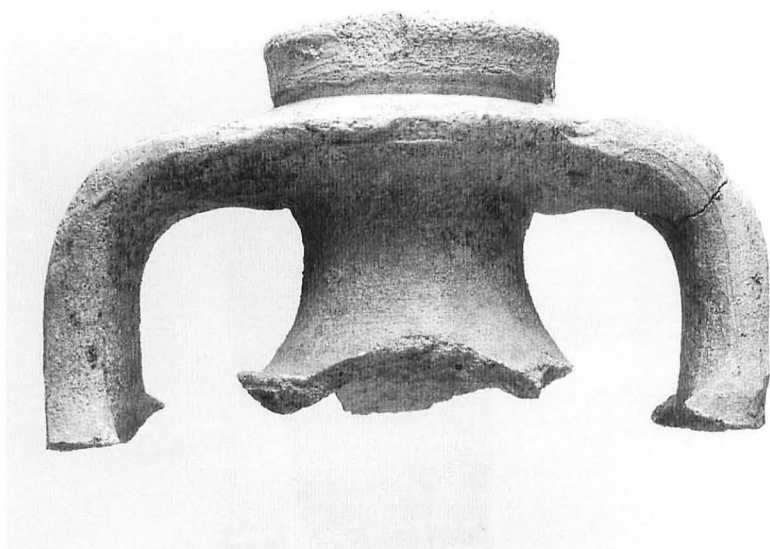


図29 土器 83
Fig. 29 Pottery 83

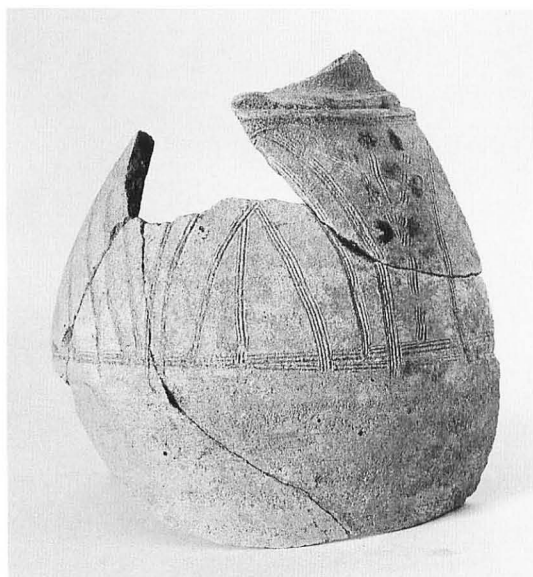


図30 土器 88
Fig. 30 Pottery 88

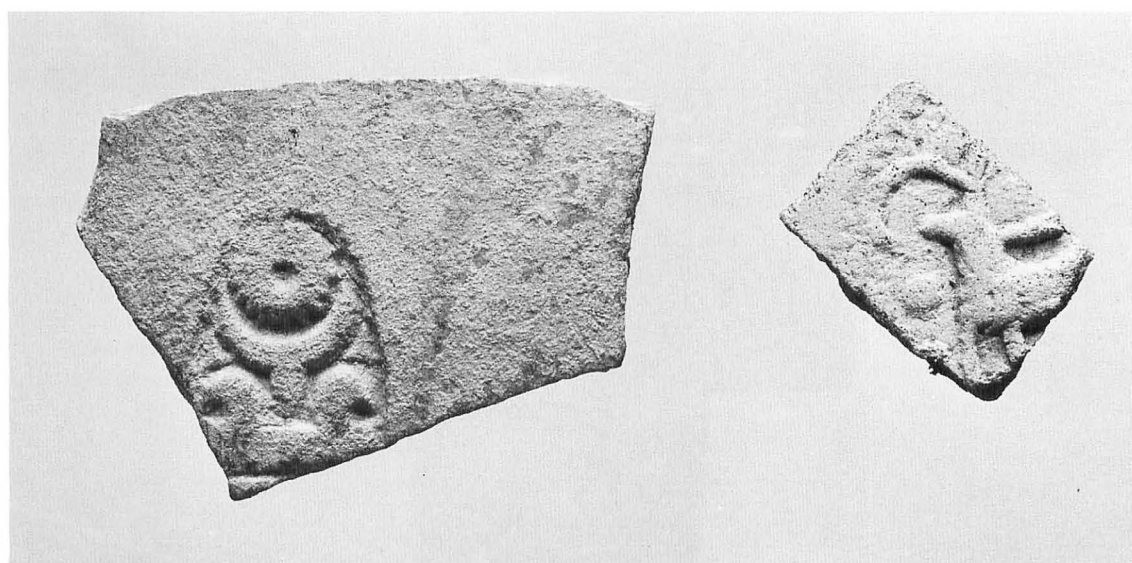


図31 土器 (表面採集)
Fig. 31 Pottery, from surface